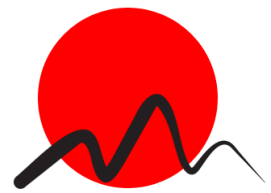


Slovenia Monthly February 2017 vol.3-no.2

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年3月7日



～2月の主なポイント～

- 政治：**パホル大統領がロシアを訪問し、プーチン大統領と経済協力やウクライナ問題について協議。政府、塊ケルンテン州新憲法案の発表を受け、スロベニア人少数民族の権利保障を要請。同性カップルに異性カップルと同様の法的権利を保障する同性パートナーシップ法が施行。
- 経済：**2016年のGDP成長率は2.5%を記録し、実質的にほぼ金融危機前の経済水準まで回復。欧州委、冬期経済観測にて本年及び2018年のGDP成長率見通しをともに3%に上方修正。政府、経済外交の戦略文書を改訂し、日本を引き続き「優先市場」に指定。
- 軍事：**国防省、70台の軍事仕様トヨタ・ランドクルーザーの調達を決定。
- 社会：**アルペンスキーのダウンヒル世界選手権でスロベニア人選手が優勝。

政治

【内政】

●スロベニアでのEU難民再移転計画の実行状況【2日】

欧州委は、難民再移転計画に基づく各国の難民受入状況を発表した。スロベニアは割り当てられている567人中、イタリアから23人、ギリシャから101人の合計124人を受け入れ、目標達成率は22%となり、EU加盟国平均の12%を上まわった。EU加盟国全体では、9万8255人中、1万1617人の再移転手続きが完了している。

●ツェラル首相とブルグレス国会議長の対立【3日・13日】

3日、ブルグレス国民会議議長は、外国人法改正案に同議長が反対姿勢を示したことを受けて、ツェラル首相が同議長に対し、現代中央党の副党首を辞任するよう要請したことを明らかにした（同法改正については1月号ご参照）。

13日、ツェラル首相とブルグレス国会議長が会談を行い、同首相は、同国会議長が党の理念や政策に今後も尽力していく姿勢を再確認できたとして、副党首からの辞任要求を撤回した。

●同性パートナーシップ法の施行【24日】

昨年4月に国会にて採択された同性パートナーシップ法が施行された。同法では、長年生活を共にする同性のペアを「パートナーシップ」と定め、養子縁組を認めないこと以外は、大部分で男性と女性の夫婦と同様の法的権利を保障している。また、旧制度で同性カップルに認められていなかった、遺族年金の受給やパートナーの死亡に際する忌引休暇の取得が可能となった。

スロベニアに迫る！④

欧州のインスタグラム大統領

ブリュッセルのウェブポータル「Politico」は、20日付で「欧州のインスタグラム大統領(European Instagram President)」と題するパホル大統領のソーシャルメディア活用に関する記事を掲載しました。

同記事では、パホル大統領はインスタグラムを使って頻繁にメッセージを発出しており、スロベニア人は、同大統領によるソーシャルメディアへのパロディ的な投稿を表す「#boruting」(同大統領のファーストネームである「ボルト(Borut)」にちなんだもの)というハッシュタグをも生み出したと紹介しています。大統領のインスタグラムは、スロベニアの人口の1%にあたる2万2千人がフォローしており、投稿写真の「いいね」の獲得数は2千以上にのぼります。

スロベニア大統領府は、「Politico」からの取材に対し、「大統領は外部のPR会社を活用せず、補佐官の支援を得て、自ら直接ソーシャルメディア・アカウントを管理している」と回答しており、本年末に予定される大統領選挙に向けて、大統領のインスタグラムにも注目です。

【外政】

●ツェラル首相のEU非公式首脳会合【3日】

ツェラル首相は、マルタにて開催されたEU非公式首脳会合に出席した。同首相は会談後、欧州・米国関係に関し、EU各国は米国新政権との良好な関係の維持及び発展を目指していくことで一致した旨、また、対ロシア関係やイスラム過激派等の脅威に対しても、EU及び欧州の尊厳と利益を保護していくとの姿勢で一致した旨述べた。

また、同首相は、今次会談の主要議題であった難民問題について、EUは他の重要課題に取り組むためにも不法移民及び治安問題に連帯して対処しなければならないと強調した。

●パホル大統領のドイツ訪問【8日・9日】

パホル大統領はドイツを非公式訪問し、ガウク大統領及びメルケル首相と会談を行った。パホル大統領は会談後、欧州の大国であり、スロベニアの最重要のビジネス・パートナーであるドイツとのあらゆる対話は非常に重要であると述べ、欧州の抱える問題の解決に積極的に取り組むスロベニアの姿勢を強調した。また、同大統領は、メルケル首相とEUの将来、中東情勢、ロシア及びウクライナに関して議論した旨明らかにし、お互いの立場を近づけることが、特に共通のEU政策を目指す上で重要である旨述べた。

●パホル大統領のロシア訪問【10日・11日】

パホル大統領はロシアを公式訪問し、プーチン露大統領と会談を行った。両大統領は、会談後に共同記者会見を行い、プーチン大統領は、ロシアとスロベニアは経済協力で価値ある成果を上げ、非常に良好な協力関係を築いているとし、政治的な制約が協力の障害となっているが、これを乗り越えることができると信じている旨述べた。

これに対し、パホル大統領は、経済制裁やEU・ロシア関係の停滞にもかかわらず、スロベニアはロシアと可能な限り協力していると述べ、一方で、ウクライナ東部情勢の沈静化は、二国間協力の拡大及びEU・ロシア間の関係改善に向けた重要な条件であり、

紛争の当事者双方に対し、武器の使用を止めるよう要請した。

●スロベニアでのモスクワ大学支部設立に関する覚書の署名【11日】

パホル大統領のロシア訪問に同行したエリヤヴェツ外相は、サドヴニチ・モスクワ大学学長との間で、コペル市所在のプリモルスカ大学におけるモスクワ大学支部の設立に関する覚書に署名した。同支部が設立されれば、EU加盟国内で初となるモスクワ大学支部となる。

プリモルスカ大学によると、最初の経済・財政学に関する共同プログラムは本年10月に開始予定であり、学生は両大学の学位を取得可能である。

●パホル大統領のウクライナ訪問【12日】

パホル大統領は、ドイツ、ロシアに続いてウクライナを訪問し、ポロシェンコ大統領と会談した。パホル大統領は、テレビ局のインタビューに応じ、ウクライナを巡る問題の解決には今後、大きな政治的意思と決意が必要であり、スロベニアは、ロシア及びウクライナ両国の友人として、欧州とロシアとの間の関係改善、及び、友好国ウクライナにおける平和、安全及び繁栄のために努力していく旨述べた。これに対し、ポロシェンコ大統領は、パホル大統領のウクライナの主権、領土一体性、欧州の結束及び二国間の経済協力強化に向けた貢献を賞賛した。



(写真: スロベニア大統領府/STA)

●ツェラル首相のアラブ首長国連邦(UAE)訪問【14日・15日】

ツェラル首相は、スマートマネジメントに関する国際会議であるWorld Government Summit出席のため、UAEを訪問した。ツェラル首相は、同会議にて、スロベニアはデジタル化、スマート・ソリューション及び資源再利用を推進する循環経済に関し、興味深い解決策を提示することができる旨述べ、スロベニアの技術力、高度な教育システム等につき紹介した。ま

た、サウード・アル・マウトゥーム・ドバイEXPO準備委員会委員長など政府高官とも会談し、主にビジネス協力について議論した。

● 燗ケルンテン州新憲法案をめぐる問題【16日・21日】

16日、スロベニア人が少数民族として居住するオーストリアのケルンテン州の新憲法案が、ドイツ語のみを公用語と定めていることを受けて、ツェラル首相は、同憲法案は受け入れられず、政府はケルンテン州でスロベニア語を保護するためにあらゆる手段をとる旨発言した。また、エリヤヴェツ外相は、状況の変化を受け、スロベニアが同国少数民族の権利保護を定めるオーストリア国家条約の承継通知を行う可能性を示唆した。

21日、エリヤヴェツ外相は、スロベニアを訪問したカイゼル・ケルンテン州知事と会談し、双方が受け入れ可能な解決策を見出すため、建設的な対話を行うことで一致した。

● パホル大統領とグラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領の非公式会談【21日】

パホル大統領は、クロアチアにおいてグラバル＝キタロビッチ大統領と非公式なワーキングランチを行い、世界の安全保障情勢、EUの現状及び今後の展望、並びに南東欧情勢等について意見交換を行った。両大統領は、現在の国際情勢に鑑み、両国が極めて良好な関係を維持し、首脳レベルでの政治対話を継続することが重要との点で一致した。

● 国会外交政策委員会が新規在外公館の開設を承認【22日】

国民議会外交政策委員会は、新規在外公館の開設を承認し、2008年の財政危機で減少以降、初の増設となった。新規大使館はモロッコとUAEのアブダビの2箇所に開設され、その他、ブルガリア及びアイルランドに領事館が新設予定である。エリヤヴェツ外相は、新規公館の開設費は50万ユーロにのぼるが、これらの地域との経済関係強化によりすぐに取り戻すことができる旨述べた。

● ダッチ・セルビア外相のスロベニア訪問【22日】

エリヤヴェツ外相は、スロベニアを訪問中のダッチ・セルビア外相と会談し、昨年の両国間の貿易高が対前年比で9%増加し、10億ドルに達したことを挙げ、両国間の協力の現状を賞賛した。ダッチ外相は、旧ユーゴの資産承継にかかる交渉について、

主要な問題における両国間で意見の違いはなく、交渉の進捗に満足していると述べた。また、両外相は、難民問題を含む地域情勢及び国際機関選挙等につき意見交換を行った。

● 欧州委がクロアチアに「テラン」名称使用を許可【24日】

欧州委は、クロアチアのワイン製造業者に対し、スロベニアの名称保護対象である「テラン(Teran)」の使用を制限付きで認める指令を採択した。クロアチア業者は、クロアチアのイストリア地方のワインに限り「クロアチア・イストリア(Hrvatska Istra)」の表記の横に、より小さい文字で「テラン」の記載が可能となる。

本問題をめぐってはスロベニア政府及び国内のワイン製造業者から大きな批判がなされており、政府は本件をめぐり欧州裁判所への提訴も検討している。

スロベニアに迫る！④

旧ユーゴ地域のブランド知名度ランキング

マーケティング・リサーチ業者のヴァリコン社は、旧ユーゴ地域のブランド知名度ランキングを発表しました。同ランキングによると、1位はコココーラ、2位はミルカ・チョコレート(Milka)、3位と4位はともにクロアチア企業の商品で、ブレンドスパイスのヴェゲタ(Vegeta)、ビタミン飲料のツェデヴィタ(Cedevita)、5位はミート・スプレッドのアルゲッタ(Argeta、スロベニア製品で現在はクロアチア企業)でした。

一方、スロベニアでは、1位はバルカフェ・コーヒー(Barcaffe)、2位はコココーラ、3位はツェデヴィタ、4位は飲料メーカーのフルクトル(Fructal)、5位はアルゲッタでした。国内ではトップ10のうち、7つはスロベニアのブランドでしたが、現在はそのすべてが外国資本の企業となっています。



バルカフェ(左)とアルゲッタ(右)

経済

【マクロ経済・統計】

●2016年貿易統計の発表【9日】

スロベニア統計局は、2016年の貿易統計（暫定値）を発表した。2016年の輸出額は、前年比4.0%増となる249億300万ユーロ、一方で輸入額は、前年比3.3%増となる240億6440万ユーロを記録し、貿易収支は8億3860万ユーロの黒字となった。また、EU諸国への輸出額は、190億1630万ユーロ（輸出全体の約76%）、EU諸国から輸入額は、194億7970万ユーロ（輸入全体の約81%）であった。

●欧州委による冬期経済観測【13日】

欧州委は冬期経済観測を発表し、本年のスロベニアのGDP成長率見通しを秋期予測の2.6%から3.0%に、2018年の同見通しを2.2%から3.0%にそれぞれ大幅に上方修正した。これは、EU及びユーロ圏平均の約2倍にあたる。欧州委は、両年において、引き続き個人消費及び輸出が経済成長の主要因となり、公共及び民間部門での投資も加速している。輸出成長率は約6%で推移し、今後2年間に於ける経常収支黒字は緩やかに減少するものの、中期的には高水準が維持されると見込んでいる。

また欧州委は、財政赤字は徐々に減少傾向にあるとし、本年の財政赤字の見通しを秋期予測の対GDP比2.0%から1.7%に、2018年の同見通しを1.5%から1.4%にそれぞれ引き下げた。

●2016年の平均月収に関する統計【15日】

スロベニア統計局は、2016年の平均月収に関する暫定的な統計を発表した。2016年の平均総月収は1584ユーロで、前年より実質値で1.9%増となった。平均純月収は1030ユーロで、対前年比では実質値で1.8%増であった。

また部門別では、公共部門の平均総月収は1836ユーロであるのに対し、民間部門は1456ユーロにとどまり、特に電気・ガス供給会社の平均総月収が2347ユーロで最も高かった。

統計地域別では、中央スロベニア地域が1751ユーロで唯一国内平均を上まわり、続いて南東スロベニア地域、ゴレンスカ地域がほぼ国内平均と同額であった。最も低い地域はプリモルスコ・ノトランスカ地域で1388ユーロであった。

地域	総賃金(EUR)	純賃金(EUR)
スロベニア平均	1585	1030
1. ゴリシュカ	1524	1007
2. ゴレンスカ	1570	1025
3. コロシュカ	1494	981
4. ドラヴァ	1450	955
5. ポムリエ	1412	940
6. 中央スロベニア (リュブリャナ等)	1751	1118
7. 中央サヴァ	1410	932
8. サビニヤ	1445	954
9. 沿岸カルスト	1560	1015
10. ノトリスコ・カルスト	1389	925
11. 南東スロベニア	1583	1036
12. 南サヴァ	1480	976



●欧州委による加盟国財政報告書の発表【22日】

欧州委は各国の財政状況に関する報告書を発表し、スロベニアをドイツ、アイルランド、スペイン、オランダ及びスウェーデンとともにマクロ不均衡が生じている国と認定した。他方、スロベニアとアイルランドについて、改革が実行され、持続可能なマクロ不均衡の改善がなされているとし、特にスロベニアについては、規制及び行政負担の軽減、銀行の不良債権の削減及び医療制度改革の開始等、課題への対処が開始されているとして評価した。

●2016年のGDP成長率は2.5%【28日】

スロベニア統計局は、2016年GDP成長率の暫定値を発表し、同年のGDP成長率は2.5%で、前年を0.2%上まわり、GDPは名目値で397億6900万ユーロであった。これにより、物価上昇等を考慮すると、スロベニアの経済水準は2008年の金融危機前をわずかに下回る水準まで回復した。

経済成長の主要因は、過去数年と同様に外需であ

り、輸出は前年比で5.9%増加し、GDP成長率全体のうち0.3%に寄与した。また、国内消費は前年比で2.4%増加し、中でも家計消費は前年比2.8%増となる高水準の成長を記録した。

【金融・企業関係】

●ドラギ欧州中銀総裁のスロベニア訪問【2日】

ドラギ欧州中銀総裁は、スロベニアのユーロ導入10周年記念行事出席のために同国を訪問し、統一通貨は欧州諸国の政治・経済統合のエンジンとして機能してきたとし、統一通貨に裏打ちされた更なる経済の開放のためには、各国政府が経済危機に対処していくための枠組み作りをしていく必要があると述べた。また、パホル大統領は、スロベニアがユーロを導入したのは過ちだとの意見を否定し、政治的観点からもユーロの存続は重要であり、昨今の情勢に鑑み、これまで以上にその役割は増してきていると述べた。

●国会がタバコ規制を強化する法案を採択【15日】

国民議会は、タバコ及び関連製品への規制を強化する法案を、賛成61票、反対0票で採択した。同法では、警告文のみ記載された統一タバコのパッケージの使用、タバコや関連製品の広告の禁止及びタバコ販売におけるライセンス制度の導入が定められている。

●経済外交に関する戦略文書「国際化への課題」の改訂【23日】

スロベニア政府は、2015年の採択文書の改訂版である「国際化への課題2016-2017」を発表し、優先市場に、従来の米国及び日本に加え、新たにカナダ、中国、インド及び湾岸諸国を追加した。同法案では、政府が主要な投資案件に対し、財政支援、税制面でのインセンティブの供与、用地取得に際する地方自治体との交渉のサポートが想定されている。

また、経済開発・技術省は本年のビジネス国際化及びFDI誘致にかかる予算として1535万ユーロを、2018年には1556万ユーロを拠出する予定である。

●安川電機が新工場の建設用地取得契約に署名【24日】

シュテルン欧州安川電機社長は、スロベニア南部クロアチア国境方面のプレブリッチ・コチェヴィエ(Kočevje)市長との間で、ロボット製造拠点の建設用地取得に関する契約に署名した。同市長は、本日はコチェヴィエ市にとって特別な日である旨述べ、従業

員の確保の観点から、同市に新設される職業訓練プログラムの重要性を強調した。

●コペル港湾会社の2016年業績【24日】

コペル港湾会社は、2016年の業績の暫定結果を発表し、売上げは前年比9%増の2億100万ユーロ、純利益は同37%増となる4440万ユーロとなり、いずれも過去最高を記録した。また、同社は昨年、貨物取扱量は2200万トンとなり、前年比で6%増加した。

スロベニアに迫る！④

「スラットナー」のアジア展開

フィナンツェ紙は、別冊版にて昨年エラン(Elan)社のスキージャンプ用のスキー板製造事業を引き継いだスラットナー・カーボン(Slatnar Carbon)社に関する記事を掲載しました。同社の名を冠する新たなブランド「スラットナー」は徐々に知名度を上げ、日本の高梨沙羅選手も同ブランドの板を愛用しています。

スラットナー社の昨年の売上げは、スキージャンプ事業への進出により前年比で30%増加しました。スキージャンプの市場規模は小さいため、売上げは75万ユーロにとどまっていますが、スキージャンプ上位選手の8割から9割が「スラットナー」のスキービンディングを使用しています。

スラットナー社は、高梨沙羅選手の影響でブランド知名度の高い日本市場に新たな商機を見出しています。同社は、日本に「スラットナー・アジア(Slatnar Asia)」を設立し、プロモーション用として既に数百ものアルペンスキー用のスキー板を受注しています。現在の事業計画では、日本市場向けのスキー板は、エラン社で製造され、スラットナー社により販売される予定です。



Slatnar Asia: <http://www.slatnar.asia/>

軍事

●国防省による軍事仕様トヨタ・ランドクルーザーの調達【13日】

カティッチ国防大臣は、オーストリアの特殊車両メーカー「Achleitner」社が製造・販売する軍事仕様のトヨタ・ランドクルーザー「MMV Survivor」をスロベニア軍向けに今後3年で合計70台調達することを決定し、調達の第一段階として5台を発注した。同車両の価格は、追加装備のスペックにより1台あたり約8万から10万ユーロで、調達額の合計は約600万ユーロとなる。

社会・文化・スポーツ

●プレシェーレン賞授賞式の開催【7日】

スロベニア芸術界の最高賞であるプレシェーレン賞の授賞式が開催された。画家のメカ・クラショヴェツ氏と、翻訳家、作家、文芸評論家であるアレシュ・ベルゲル氏に対して今年のプレシェーレン賞が授与され、両氏は受賞スピーチにて、受賞の喜びと近親者や創作関係者への感謝を表明した。（プレシェーレン賞については1月号をご参照）

●スロベニア人選手がアルペンスキー世界選手権で優勝【12日】

スイスのサンモリッツで開催されたアルペンスキーのダウンヒル世界選手権にて、スロベニア人女性のイルカ・シュトゥヘツ選手（Ilka Štuhec、26歳）が金メダルを獲得した。2年前にアメリカのコロラド州・ベールにて開催された世界選手権の同種目にて金メダルを獲得したティナ・マゼ選手につづく優勝となり、スロベニア選手のスキー世界選手権制覇は、1989年にベールにて開催されたアルペンスキーのスラローム世界選手権で優勝したマテヤ・スベツ選手、ティナ・マゼ選手につづき3人目となった。

スロベニアに迫る！ ④5

今年のプレシェーレン賞受賞者の横顔

今年プレシェーレン賞を受賞したメカ・クラショヴェツ（Metka Krašovec）氏とアレシュ・ベルゲル（Aleš Berger）氏。今回は両氏の活動と功績に迫ります。

クラショヴェツ氏は、リュブリャナ美術アカデミー在学中、ガブリエル・ストゥピカ教授のもとで学び、1964年に同アカデミーを卒業後は大学院課程でグラフィ

ックアートの修士号を取得しました。彼女の作品テーマは年代を経て様々な進化を遂げ、スロベニア女性芸術家の大家と呼ばれるようになり、1973年にはプレシェーレン基金賞、1983年にはヤコピッチ賞（Jakopič Award）を受賞するなど素晴らしい経歴を築いています。

ベルゲル氏は、リュブリャナ大学で比較文学とフランス語を学び、編集者や演劇評論家として活躍しています。フランス文学やスペイン文学の翻訳家としても知られ、これまでフランス文学の若手翻訳者の育成に力を入れているほか、自身でもエッセイ集「スケッチとノート（Krokiji in beležke）」（1998年）や短編集「困った物語（Zagatne zgodbe）」（2004年）などの作品を出版しています。また、2006年にリュブリャナの国立劇場で上演された喜劇「デート（Zmenki）」や子供向けの演劇や歌も手がけ、長年にわたりラジオや新聞で演劇の論評を行っています。今回の受賞では、このような同氏の多方面での活躍が評価されました。



ベルゲル氏（左）とクラショヴェツ氏（右）
（写真：デロ（Delo）紙電子版）

発見！スロベニア

スロベニアの春の歌「スノードロップとプリムローズ」

世代を問わずスロベニア国民に親しまれている有名な春の歌に「スノードロップとプリムローズ」(原題: Zvončki in trobentice、ズヴオンチュキ・イン・トロベンティツェ)という曲があります。

この歌は、1958年にユーゴスラビア社会主義連邦共和国における最大のレコード会社「ユーゴトン」からリリースされ、当時の著名な歌手マリヤナ・デルジャイ、ベティ・ユロコヴィッチらによって歌われていました。その明るくポップな旋律から、当時はもちろん、今もなおスロベニアの人々に愛されており、学校で習うほか、親から子へ伝えられている歌でもあります。また、歌詞に登場する植物は、スロベニアの春の訪れを象徴する植物で、スノードロップ(ズヴオンチュキ)以外は、プリムローズ(トロベンティツェ)、ネコヤナギ(マチツツェ)、スマレ(ヴィオリツェ)と語尾の音韻が揃えられています。

【歌詞邦訳 ～抜粋～】

<https://www.youtube.com/watch?v=mVTsyoLnHAU>

スノードロップ、プリムローズ、ネコヤナギ、すみれが
地表から再び芽を出し さあ春がやってきた
草木は青々と 森の中の全てが生き生きとしている
カッコウもまたさえずり
心は大きく開き 今 愛の時間
気持ちがいい春の訪れ



マリヤナ・デルジャイ(左)と
ベティ・ユロコヴィチ(右)



当時のレコード



スノードロップ



プリムローズ

コペル市の展覧会に小池氏の作品が展覧

様々な現代芸術を紹介する Maravee Festival の一環として、コペル市のガレリア・ロジヤ (Galeria Loža/Gallery Loggia) にて展覧会が開催されています。今年は「芸術の遊びと遊びの芸術」とテーマとし、生活の中で遊び心あふれる場面を表現した写真や絵画、空間芸術作品を鑑賞することができます。

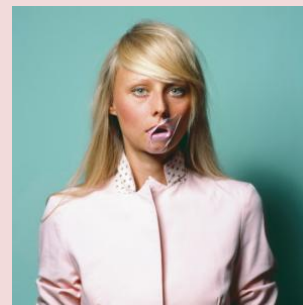
本作品展には、スロベニア在住の写真家である小池健輔氏の作品も展示されています。同氏は、シュールリアリズムのコラージュ写真作品の中で、相反するイメージを効果的かつシンプルな手法で組み合わせ、鑑賞者に驚きと感動を与えます。

展覧会は3月26日まで開催される予定です。

(本内容は、2月24日付ドゥネウニク紙文化面の記事を元に作成されています。)



小池健輔氏の作品(左)と
同じく展覧会参加する Janez Vlady 氏の作品(右)
(写真: Obalne galerije Piran ホームページ)



在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★当館ホームページに「もっと知りたい！スロベニア」を開設しました！

この度、ホームページに当館作成のスロベニアの政治・経済に関する資料や地方都市ガイドを掲載した「もっと知りたい！スロベニア」を開設しました。トップページから移動できますので、ぜひご覧ください。

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。既に発信済みの1月号では福岡県、2月号では秋田県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【文化行事のお知らせ】

●スキージャンプ・ワールドカップ プラニツァ大会

例年3月下旬に開催されるスキージャンプ・ワールドカップ最終戦シリーズ。競技当日は多くの観客が訪れ、選手がジャンプする毎に会場は応援で湧きます。この機会に日本人選手を応援しに、プラニツァまで足を運んでみてはいかがでしょうか。なお、チケット購入や競技スケジュール等の詳細は公式サイトから確認できます。

日時: 3月23日(木)～26日(日)

(24日・26日 個人戦 / 25日 団体戦)

会場: プラニツァ・スキージャンプ競技場(プラニツァ・ノルディックセンター)

公式サイト: <http://www.planica.si/en/>

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご利用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

たびレジには「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご利用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が急増しています！

最近、リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が非常に多く発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ鉄道駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入れないようにし、何か異変を感じたらすぐに確認してください。